

2016年度 環境活動レポート

(2016年度版)

(2015年11月～2016年10月)

作成日 2017年 1月 9日

更新日 2017年 1月 9日



技 術
信 頼
挑 戦



有限会社 エドランド工業



認証・登録番号0001718

環 境 方 針

有限会社 エドランド工業

環 境 方 針

自然環境を常に意識し、継続的な汚染予防・改善に努め、『地球にやさしい物づくり、物にやさしい人づくり』をスローガンとして、全員参加のもと環境経営システムを継続的に運用し、環境保全・環境負荷低減に努めます。

環境保全への行動指針

1. 次の項目について、環境目標・活動計画を定め、継続的な改善と汚染の防止に努めます。
 - ①二酸化炭素排出量の削減(低炭素社会への対応)
 - ・購入電力、社用車燃料、灯油
 - ②水使用量の削減(水資源の保全)
 - ・地下R及び水道水
 - ③廃棄物の削減及び再資源化の推進(循環型社会への対応)
 - ・可燃ゴミ、産業廃棄物(汚泥、廃油)
 - ④グリーン購入(環境に配慮した物品等の購入)
 - ⑤製品における環境配慮の取組み〔生産及び出荷〕
 - ・化学物質を使用するにあたり数量、排出量を把握する
 - ⑥地域での環境活動への積極的参加
2. 環境関連法規制及び協定を遵守します。
3. 環境への取組を環境活動レポートとして取りまとめ公表します。

本方針は全従業員に周知するとともに、地球環境意識の徹底を図っていく。



認証・登録番号0001718



制定 2006年 9月18日

改訂 2015年 9月 1日

有限会社 エドランド工業
代表取締役社長 久保 公司

1. 事業所の概要

(1) 事業所名、代表社名及び所在地

事業所	有限会社 エドランド工業
代表者	代表取締役社長 久保 公司
所在地	岐阜県関市下有知 3846-1

(2) 管理責任者指名及び担当者連絡先

管理責任者	製造部 部長	猿渡 博美
担当者	本部 営業課長	山田 裕二
連絡先	TEL.	0575-22-0451(代)
	FAX	0575-24-1632
	e-mail	edems@edlund.co.jp

(3) 事業内容及び認証・登録の範囲

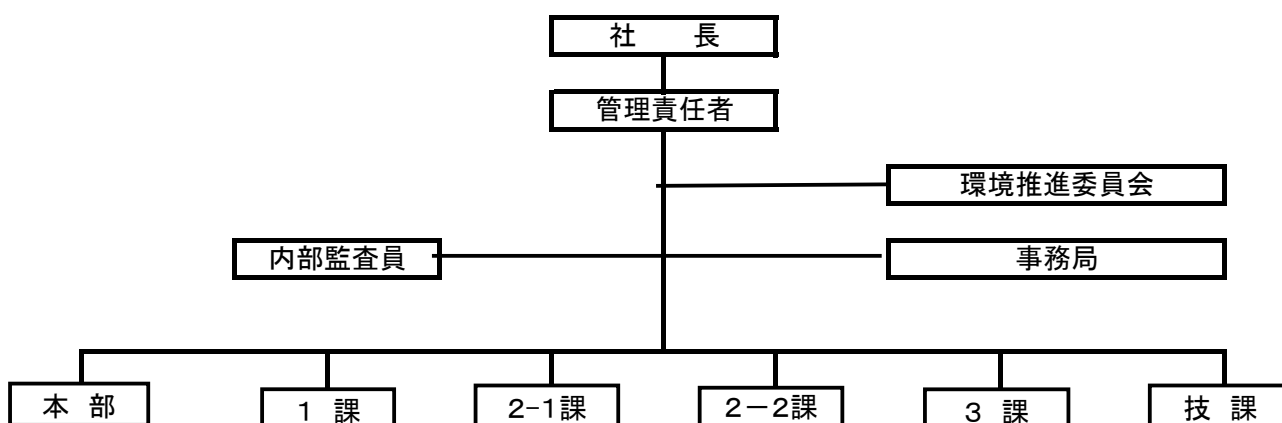
事業内容	当社は”刀匠の里”として全国的に知られて おります関市北西部に位置し、1919年(大正 8年)創業し、創業97年に成ります。主として、刃物及び金属加工品の設計・製造・販売を行っています。
認証・登録の範囲	刃物、金属加工部品の設計・製造・販売

(4) 事業の規模

項目	2013年	2014年	2015年	2016年
売上(千円)	424,000	448,000	408,000	362,000
従業員数	39人	41人	39人	38人
事業所床面積	敷地 2,800坪		建物 980坪	
事業年度	11月~1翌年10月			

(5) 環境経営組織図

2016年10月21日現在



※推進委員会メンバー

社長、管理責任者、各部門エコ委員、事務局で構成する

評価 ○:達成 △:ほぼ達成(5%未満) ×:未達成

2. 環境負荷実績、環境目標及び実績

下段は'10年比(基準年度)を示す

中期計画		第2期			第3期				第4期		
項目	単位	10年実績	14年実績	15年実績	16年				17年	18年	
		基準年度			目標	実績	評価	評価(参考)	目標	目標	
					補正無		補正無	補正後	補正無	補正無	
二酸化炭素排出削減	電力使用量	MWh	314.6	306.7	306.8	280.0	290.0	×	×	280.0	270.0
		%	100	97	98	89	92		111	89	86
	灯油使用量(廃油含む)	リットル	7,336	5,720	4,070	4,700	2,900	○	○	1,500	1,500
		%	100	78	55	64	40		48	20	20
	社用車燃料	リットル	4,623	3,287	3,153	3,150	3,093	○	×	3,100	3,050
		%	100	71	68	68	67		81	67	66
内訳	ガソリン	リットル	1,172	2,153	2,925	—	2,899	—	—	—	—
	軽油	リットル	3,451	1,134	227	—	194	—	—	—	—
削減	CO2排出量	t-CO2	179.2	167.3	162.7	152.0	151.6	○	△	152.0	149.0
		%	100	93	91	85	85		102	85	83
省資源の推進	資源投入量(鋼材)	kg	57,696	50,898	50,898	設定無	0	—	—	—	—
		%	100	88	88		0				
	水使用量	m3	36,009	28,488	17,494	27,100	23,253	○	△	1,800	1,780
		%	100	79	49	75	65		78	5	5
廃棄物の排出抑制	可燃ゴミ(木屑除く)	kg	770	940	840	850	1,015	×	×	800	770
		%	100	122	109	110	132		159	104	100
	産業廃棄物(污泥、廃油)	kg	14,200	4,680	5,200	4,400	1,015	○	○	4,350	4,300
		%	100	33	37	31	7		9	31	30
グリーン購入	紙類	kg	データ無	61	61	—	0	○	○	—	—
	(調達率)	%		66	38	50	78			50	50
	事務用品	点	データ無	24	24	—	0	○	○	—	—
	調達率	%		23	20	25	41			30	30
製品生産量	kg	23,619	24,453	19,910	設定無	0	—	—	—	—	
	%	100	104	84		0					
製品生産高	万円	43,649	45,269	40,813	設定無	36,204	—	—	—	—	
	補正值	1.00	1.04	0.94		0.83					

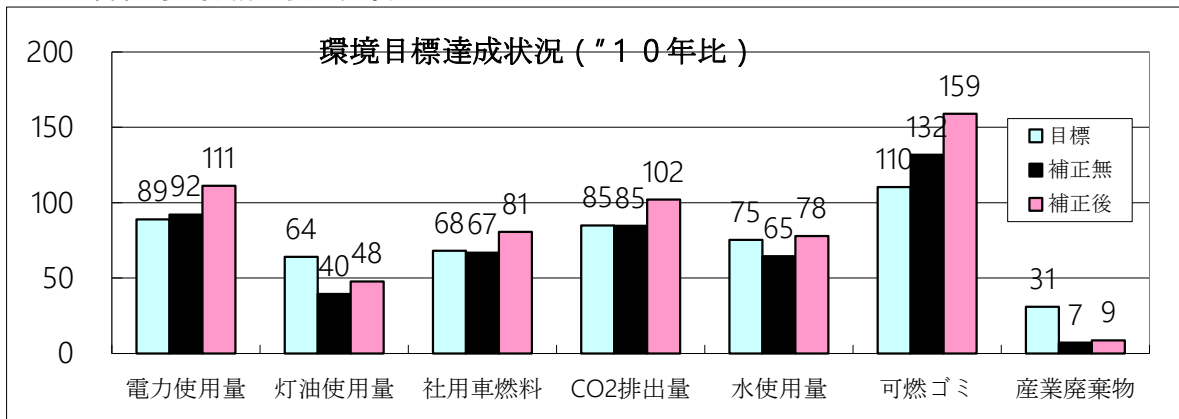
(注記) 1. 購入電力の排出係数は、環境省「平成22年度の電気事業者別二酸化炭素排出係数」を用いた。

0. 473kg-CO2/kWh(中部電力):各年度のトレンドが判るようこの値で算出した。

2. 本年度環境目標の達成状況('10年比)のグラフを下図に示す。

3. 評価記号 ○:達成(目標%以下) △:ほぼ達成(目標%に対し5%未満超過) ×:未達成(目標%に対し5%以上超過)

4. 評価(参考)補正後の定義 10年比(%)=実績%/生産高補正值



3. 環境活動の取組計画と活動結果の評価

◎:よくできた

○:できた

△:あまりできなかった

×:まったくできなかった

取組計画		達成状況	評価(結果と今後の方向)
二酸化炭素排出削減	電力使用量の削減		目標未達成(生産補正無、評価:△)
	①省エネ・省資源ルールの遵守	○	・基準年度に比べ24.6MWh削減出来たが、目標に対し10MWh増加し目標を達成できなかった。 (基準年度比目標89%に対し、92%) ・15年度に比べ生産減にもかかわらず使用量が増加したS棟にエアコン設置を加味しても削減活動が不十分であった。 ・エアコン設置、LED照明への移設の実施(P棟) ・省エネ・省資源ルールの活動では限界があり、 ⑦Peak電力の抑制及び⑧主要機器の使用方法の見直しを検討したが実施できず、次年度も電力量のモニタリング調査を行い削減に努めていきたい。
	②冷房温度28℃設定とクールビズ	○	
	③暖房温度20℃設定とウオームビズ	○	
	④不必要照明の消灯	○	
	⑤製造設備・機器の節電	○	
	⑥省エネ機器への切り替え(照明、エアコン他)	○	
	⑦Peak電力の抑制(契約電力139kW以下)	△	
	⑧主要機器の電力量モニタリングによる使用方法の見直し	△	
	灯油使用量の削減		
①省エネ・省資源ルールの遵守	○	・基準年度に比べ、4,436リットル削減でき目標を達成できた。 (基準年度比:目標100%に対して40%)	
②ストーブの火力をできる限り落とす	○	・灯油節約の意識は定着して来ている。	
③不要ストーブの削減(指定台数以下)	○	・各棟の大型ストーブの使用が激減し削減されたと考える。	
④職場の防寒対策とウオームビズ	○		
⑤扉、壁等の隙間風対策(防寒シート等の設置他)	○		
削減	社用車燃料使用量の削減		目標達成(生産補正無、評価:○)
	①運転マナーの励行	○	・基準年度に比べ、1,530リットル削減でき目標を達成できた。 (基準年度比:目標68%に対して67%)
	②社用車毎の運行状況の確認	○	・集配業務を基本1人に徹底した結果燃料の削減に繋がったと考える。
	③集配方法の見直し(原則1人)	○	
省資源の推進	水使用量の削減		目標未達成(生産補正無、評価:△)
	①節水意識の励行	○	・基準年度に比べ、約12,750m ³ 削減できた。
	②蛇口の点検、修理	○	・水道管の新設工事を行った結果、ほとんどが漏水だとわかった。
	③洗浄水等の節水	○	・次年度の目標値を変更 (基準年度比:目標75%に対して65%)
廃棄物の排出抑制	可燃ゴミの排出削減		目標達成(生産補正無)
	①可燃ゴミ分別収集ルールの遵守	×	・基準年度に比べ、70kg増加したが、目標を達成できた。 (基準年度比:目標117%に対して109%) ・種類毎(紙、ビニール)の排出量を調査し、削減に勤めた。 ・段ボールのリサイクルは、400kgと減少した。 新聞紙、雑誌のリサイクルを開始し、420kgと増加した。
	②リサイクルの促進(段ボール他資源ゴミ)	○	
	③私用品のゴミの持込み禁止	○	
	④両面、裏面コピーの推進	○	
	⑤シュレッダー紙屑の再利用(包装補助材等)	○	
	⑥段ボール、新聞紙等のリサイクル	○	
	産業廃棄物の排出削減(汚泥、廃油、木屑)		目標達成(生産補正無、評価:○)
	①汚泥、廃油の排出量調査	○	・基準年度に比べ、13,185kg削減でき目標を達成できた。 (基準年度比:目標31%に対して9%) 汚泥の排出量が近年激減しているため2~3年に1回の回収によって今年度も達成という状況になっている。
	②産廃業者引取量の確認	○	
③研磨屑の再利用(市組合に引取り調査及び定期的な点検、清掃)	○		
④金属屑の分別収集(材料別)	○		

取組計画	達成状況	評価(結果と今後の方向)
グリーン購入		目標達成
①環境ラベル適合製品の調査		①紙類(コピー用紙、トイレットペーパー)は調達目標50%に対し、53.7%と達成。(トイレットペーパーは100%調達) ②事務用品:24.3%購入(9点)と目標達成。 今後も購入商品の見直し等を行い、グリーン調達比率を高めていきたい。
②事務用品等の購入実績の調査(前年度分)		
③調達リストの作成(紙類、事務用品他)		
④購入十是機の把握と分析		
社会貢献 (実施状況の写真は右の通り)		
①会社周辺の清掃作業(年3回程度)		
12月実施(参加人員 8名)		
3月実施(参加人員 8名)		
5月実施(参加人員 12名)		

4. 環境関連法規等の遵守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規は、次のとおりです。

適用される法規	適用される事項(施設、物質、事業活動等)	遵守評価
水質汚濁防止法	貯油場、廃油置場、貯水池	油流出事故なく 違反なし
廃棄物処理法	一般廃棄物(可燃ゴミ他) 産業廃棄物(汚泥、廃油、不燃ゴミ)	違反なし (マニフェストを保管)
騒音・振動防止法	空気圧縮機、機械プレス	知事に届出済 (変更なし)
消防法	火災報知機	消防署に届出済
遵守状況	環境関連法規等の遵守状況を評価した結果、環境関連法規への違反及び訴訟は、過去3年間ありませんでした。	

5. 代表者による全体の評価と見直し

項目	代表者による見直し
環境方針	変更の必要性 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 2015年 9月 1日改訂した「環境方針」を継続する。
環境目標・活動計画	変更の必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 (1)環境目標(2017年度目標値の見直し及び基準年の変更)基準年2015年度 ①電力使用量の削減 280MWh(15年比: 97%)以下 ②灯油使用量の削減 1,500リットル('15年比: 26%)以下 ③社用車燃料使用量の削減 3,100リットル('15年比: 98%)以下 ④二酸化炭素排出量の削減 152t-CO2('15年比: 95%)以下 ⑤水使用量の削減 1,800m3('15年比:98%)以下 ⑥可燃ゴミの排出削減 800kg('15年比: 104%)以下 ⑦産業廃棄物の排出削減 4,350kg('15年比: 97%)以下 ⑦グリーン購入(事務用品他) 紙類:50%以上購入 事務用品:30%以上購入
その他指示事項	2016年度は、5S活動を含め社内内の整理・整頓がなされ倉庫等がすっきりしたことに驚きました。 2017年度もより一層の活動を期待します。

5. その他環境活動の紹介

5.1 環境意識の浸透

(1) 環境改善の事例発表会(11月に実施)

16年度活動結果について、全員参加のもと、各部門代表者が活動成果、反省点及び17年度活動目標(環境及び品質)を発表、質疑応答により意識向上を図った。



5.2 緊急時の対応テスト実施状況

手順は「緊急事態への対応手順書」による

① 避難訓練(全員対象)

10月実施

地震による火災発生という想定のもと実施
前年度の反省を生かしスムーズに行えた。

② 油流出時の対応訓練(エコ委員及び関係者)

7月実施(参加人員11名)

廃油運搬中にドラム缶が転倒し油が流出を想定に実施。
初期対応は良好だが、訓練の意識が迅速・的確に行動できていないところがあった。



③ トラックへの荷積み作業訓練(本部関係者)

3月実施(参加人員7名)

荷崩れ防止のためのロープ掛けを実技訓練した。
日頃ロープ掛けを行う機械が少なく忘れがちであり
普段練習して忘れないようにすることとした。



5.3 製品、サービスに関する環境目標(改善例)

各部門の改善事例

環境目標	部門	活動結果の概要	評価
不要在庫の整理 製品在庫棚の増設・集約 出荷用資材の整理 商品部製品倉庫の整理	5S-1班	・不要・必要の判断が出来なく、予定通りに進まなかった。 ・棚を増設し、1ヶ所に集約した。 ・取引先別で表示し整理・整頓した。 ・不要・必要の判断が出来なく、予定通りに進まなかった。	△
職場の工具の整理整頓 金型の処分 目標値 工具の30%削減	5S-2班	などを製作してすぐ取り出しやすく戻せるよう整頓した。 ・工具の30%の削減を目標値として活動した結果、年間で52%の削減が出来目標を達成でき良い結果となった	○
機械の修理及びメンテナンス 目標値 刃付け機の完全修理	メンテ班	・修理、メンテナンスに必要なシーケンス制御の基礎知識を学び 現場で使用できる簡単な機器を作成した ・自社製作機械の修理、メンテナンスを実施することにより 機械のしくみや電気関連のことを深く知ることができた	△
材質別使用砥石の確立 目標値 材料に合った砥石選定	研削班	・焼入れ材の場合ボラゾン砥石はどの材質にも良好な結果 その次 80Iが良好(製品形状・加工方法で砥石を選定している ・焼入れ前の材料は80Iが設定数値研削できた 他の砥石と比べ一番 良好な結果が出た	△
切れ味の違いを確認し、知識をつ 今後の仕事に活用 目標値	刃付け班	・同一条件の刃物でも 検査結果に大きなバラつきが出てしまった。 ・刃付け後のパフのあてかたによる違いもあった。 ・バラつきがあり検査結果がまとまらないままになってしまった。	△

6. 2016年度活動計画

環境目標		目標値	担当	主な活動計画・取組
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	280MWh以下 15年比 97%以下	全部門	(1)省エネ・省資源ルールに従って節電に努める。 ①空調機器の温度管理(設定温度), ②不必要照明の消灯、クールビズの推進 ③設備・機器の節電(空運転等の禁止) (2)省エネ機器への切替(照明他) (3)デマンド監視によるPeak電力の抑制 (4)製造設備・機器の適正管理 (主要設備・機器の電力量モニタリングと改善)
	灯油使用量の削減	1,500リットル以下 15年比 26%以下	全部門	(1)省エネ・省資源ルールに従って節約に努める。 ①火力の調整、不必要なストーブは消す、他 ②ウオームビズの推進 (2)職場の防寒対策 ①隙間風対策(扉、作業場の囲い等)
	社用車燃料使用量の削減 (ガソリン、軽油)	3,100リットル以下 15年比 98%以下	本部	(1)運転マナーの励行、燃料節約に努める。 ①アイドリングストップ、 ②急発進、急停車の禁止 (2)効率的な集配業務の実行 ①集配方法の見直し(原則1人で集配)
省資源	水使用量の削減 (地下水、上水)	1,800m ³ 以下 15年比 98%以下	全部門	(1)省エネ・省資源ルールに従って節水に努める。 ①節水意識の励行 ②蛇口の点検、修理
廃棄物の排出抑制	可燃ゴミの排出削減	800kg以下 15年比 104%以下	全部門	(1)分別収集、可能な限り圧縮し減量化に努める。 (2)リサイクルの推進(ダンボール、新聞紙他)
	産業廃棄物の排出削減 (汚泥、廃油)	4,350kg以下 15年比 97%以下	2課 3課 本部 全部門	(1)廃棄物(汚泥、木屑、廃油)排出量の調査 (2)研磨屑の有効活用(市組合に処分してもらう) (3)保管場所の点検、清掃(2ヶ月毎) (4)金属屑の分別収集と異物投棄の禁止
グリーン購入	紙類 (コピー用紙、トイレットペーパー)	50%購入	本部	(1)グリーン調達リスト(事務用品他)の見直し (2)調達リストによる購入と実績把握
	事務用品 (ファイル他)	30%以上購入		
社会貢献		設定無	管理責任者 事務局	会社周辺の清掃作業(年3回程度)
製品・サービスに関する環境目標		本年度は実績把握と改善	5SG	工場内の設備、機械、治工具等の整理、整頓を行い、空スペースを確保する
			熱処理G	焼入れ温度による硬度変化を把握し 焼き戻し温度と硬度の関係を調査する
			刃付G	刃角、板厚の違いにより、切れ味、耐久性を検証し 今後の仕事に役立てる
			メンテG	機械の修理、メンテナンスの技術継承ができるよう 機械の仕組みの習得及び機械の修理を行えるようにする